UDLM

12
vol.353
December
31st
2024

来て、住んで、わがまち

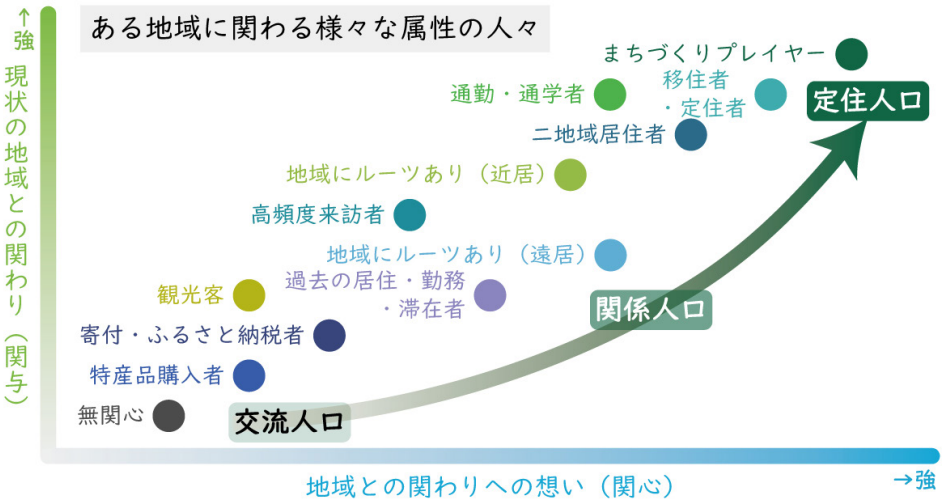
全国各地で進む、人口減少。
「わがまち」の生活・文化を維持・継承するためには、
外から人を呼び込むことが鍵となる。
まずはまちを知ってもらい、次に来てもらい、
あわよくば住んでもらいたい。
そんな各自治体の取組の中から、
移住定住施策とアンテナショップに着目して特集します。

△山中湖から望む富士山。山梨県・静岡県では多くの自治体が富士山の眺望を PR しています。

p.2　地域への関わり方、いろいろ
　　移住定住施策のこれまで
p.3　移住・定住推進事例
p.4-5　住んで！わがまち自慢
p.6-7　巡って、買って、ふるさと
p.8　食べて！わがまち自慢

URBAN DESIGN LAB. MAGAZINE

地域への関わり方、いろいろ



地域への関わり方は訪問・定住だけでなく様々ある。まず気軽な訪問として**観光**が挙げられるが、最近は６～８ページで紹介するようなアンテナショップやネットショップ経由で**特産品を購入**したり、**ふるさと納税**で地域の財政に貢献しながら、特産品を受け取るような人も増えているといえる。こうした気軽な地域との関わりを持つ人々を一般に、「**交流人口**」と称する。
一方、「**交流人口**」と「**定住人口**」の間にあたる、地域と多様に関わる人々＝「**関係人口**」が地域の担い手として期待されている。地域に**生まれ育ちのルーツ**があったり、学生の間など数年間の**居住経験**があったり、観光での来訪をきっかけに**何度も来訪**したりする＜風の人＞といった人々が「**関係人口**」にあたる。研究室プロジェクトで何度も対象地に行き来する我々も＜風の人＞にあたるのではないだろうか。
また、平日は都市部に住んで仕事をし、休日は地方部に住んでレジャーに勤しむといった**二地域居住**のスタイルも、テレワークの浸透が追い風となって注目されつつある。
さらに、移住・定住者の中でも、地域おこし協力隊として活動したり、新たなビジネスを興したり、イベントを企画したりする主体的な**プレイヤー**が、地域には求められている。

移住定住施策のこれまで

棒は地方圏（三大都市圏以外）への年間転出数・転入数、折れ線は年間転入超過数を示す。
参考：総務省統計局　住民基本台帳人口移動報告　2023 年（令和５年）結果
https://www.stat.go.jp/data/idou/2023np/jissu/youyaku/index.htm
e-stat　住民基本台帳人口移動報告 平成 27 年住民基本台帳人口移動報告
https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003296522

1960s
地方への産業誘致で格差の是正図る

移住定住というよりも、工場等誘致による人口流出抑制が目標とされた。

・1962　第一次全国総合開発計画策定　拠点開発方式
・1964-1966　新産業都市・工業整備特別地域指定
・1969　第二次全国総合開発計画策定　大規模プロジェクト構想

1970s
過疎への対策強化と定住圏構想

開発だけでなく自然と調和した地方振興が目指された。転出超過は緩和。

・1970　過疎地域対策緊急措置法施行
・1977　第三次全国総合開発計画策定　定住構想
・1979　田園都市国家構想

1980s
地方分権と独自の移住定住施策の興り

国主導の地方分権の動きにより、独自に移住定住を促進する自治体が現れた。

・1984　熊本県が独自の U ターン促進政策開始
・1987　第四次全国総合開発計画策定　交流ネットワーク構想
・1987　リゾート法施行

1990s
国を挙げた移住定住促進始まる

移住定住そのものを目的とした施策が各地に広まる。

・1994　緑のふるさと協力隊制度開始
・1997　新・農業人フェア開始
・1998　21 世紀の国土のグランドデザイン策定　参加と連携

2000s
移住定住制度の導入と二地域居住の関心

現在に繋がる制度が数多く新設され、二地域居住に関する議論も開始した。

・2004-2005　二地域居住人口研究会開催
・2008　集落支援員制度開始
・2009　地域おこし協力隊制度開始

2010s
法整備とプラットフォーム導入

地方への移住・定住促進が国の重要政策として位置づけられた。

・2014　まち・ひと・しごと創生法施行
・2014　地域おこし企業人制度開始
・2018　関係人口ポータルサイト開設

2020s
デジタルを活かした移住定住の促進

コロナ禍によるテレワークの普及で、「転職なき移住」が注目された。

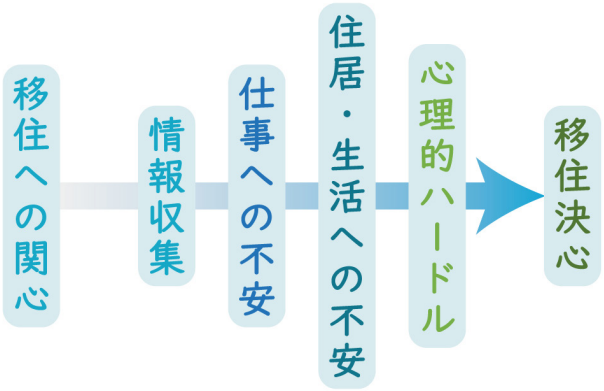
・2020-2023　新型コロナウイルス流行によりテレワークが一挙に拡大
・2021　デジタル田園都市国家構想
・2024　二地域居住促進のための改正広域的地域活性化基盤整備法施行

参考：農林金融 2016 年５月号　移住促進政策の変遷と課題―鳥取県鳥取市の事例を踏まえて―
https://www.nochuri.co.jp/report/pdf/n1605re2.pdf
国土交通省　国土形成計画（全国計画）参考資料
https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/content/001621776.pdf

-160　-120　-80　-40　0　40　80　120　160
←転出超過　（万人/年）　転入超過→

移住・定住推進事例

総務省では『「地方への人の流れの創出 」に向けた効果的移住定住推進施策事例集』において、移住者の呼び込みの流れを、移住関心層に興味を持ってもらうための「①移住関心層への広報」、関心を寄せた人に対する「②情報収集」、具体的な検討を始めた人への「③仕事」「④住まい・生活」「⑤心理面」でのサポート、最終的に希望者が移住を「⑥決断」の 6 段階のフェーズに分解している。①②の PR 面については次ページで詳しく述べるため、ここでは③～⑥の具体的な取組について、筆者の訪問歴がある自治体の中から、先行事例を紹介する。



③仕事　伝統技術継承者への奨励金

愛媛県内子町

2024/6 訪問

「町並み、村並み、山並みが美しい 持続的に発展するまち」を掲げる内子町。中心部には木蝋や和紙の生産で栄えた重伝建の街並みや、木造芝居小屋「内子座」が残り、山間部には棚田や国有林が残る。伝統産業を継承する意欲のある人に、修行過程で町から最大 3 年間月 12 万円の奨励金を交付している。

④住まい・生活　蔵の移住体験施設

栃木県栃木市

2024/12 訪問

例幣使街道の宿場町として栄えた、「小江戸」と呼ばれる蔵の街、栃木市。新幹線や東部特急で東京まで 1 時間強でアクセスでき、特急料金補助などで通勤者の呼び込みも狙っている。築 170 年の蔵を改修し、カフェ併設型の移住体験宿泊施設（月 3 万円）を設置している。

⑤心理面　コラーニングスペース

青森県弘前市

2023/6 訪問

「お城とさくらとりんごのまち」と言われる現存天守がある城下町、弘前市。城のほかにも、近代建築や武家屋敷、ねぷたまつりや津軽塗など、多くの文化遺産が点在する。移住者がコラーニングスペースを運営し、移住者の属性別のイベントも開くなど、地域と馴染むための工夫をしている。

⑥決断　移住者を交えた暮らし推進協議会

長野県駒ケ根市

2020/9 訪問

赤石山脈と木曽山脈に挟まれた「アルプスがふたつ映えるまち」駒ヶ根市。先輩移住者と、不動産・建設・自動車・金融などの事業者が集まり、協議会を結成。先輩移住者からの実体験に基づいた話が聞ける機会を設け、ミスマッチを防いでいる。パンフレットにもネガティブな点を合わせて記載している。

番外編　地域おこし協力隊の活用

千葉県香取市

2024/2 訪問

利根川に面した「自然・歴史・文化が共生する水郷のまち」香取市。重伝建の街並みや利根川の自然景観のほか田園風景がウリで、古民家内見ツアーや農家ツアーなどを実施中。移住定住施策には協力隊の活用も盛んで 4 名が活動し、次世代の協力隊を呼び込むべく学生向けの体験ツアーも企画中。

参考：総務省　「地方への人の流れの創出 」に向けた効果的移住定住推進施策事例集　https://www.soumu.go.jp/main_content/000742996.pdf
愛媛県移住ポータルサイト　えひめ移住ネット　https://e-iju.net/
栃木県移住・定住促進サイト　ベリーマッチとちぎ　https://www.tochigi-iju.jp/
青森県移住・交流ポータルサイト　あおもり暮らし　https://www.aomori-life.jp/index.html
Heart Lighting Station 弘前　https://hls-hirosaki.com/
駒ケ根市移住定住サイト　こまがね日和　https://www.city.komagane.nagano.jp/iju_teijusite/index.html
千葉県移住・二地域居住ポータルサイト「ちばらしい暮らし」 https://life-style.chiba.jp/
香取市ホームページ　https://www.city.katori.lg.jp/index.html
国土交通省　若者の地方体験交流のご案内（令和６年度） https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chisei/kokudoseisaku_chisei_tk_000183.html

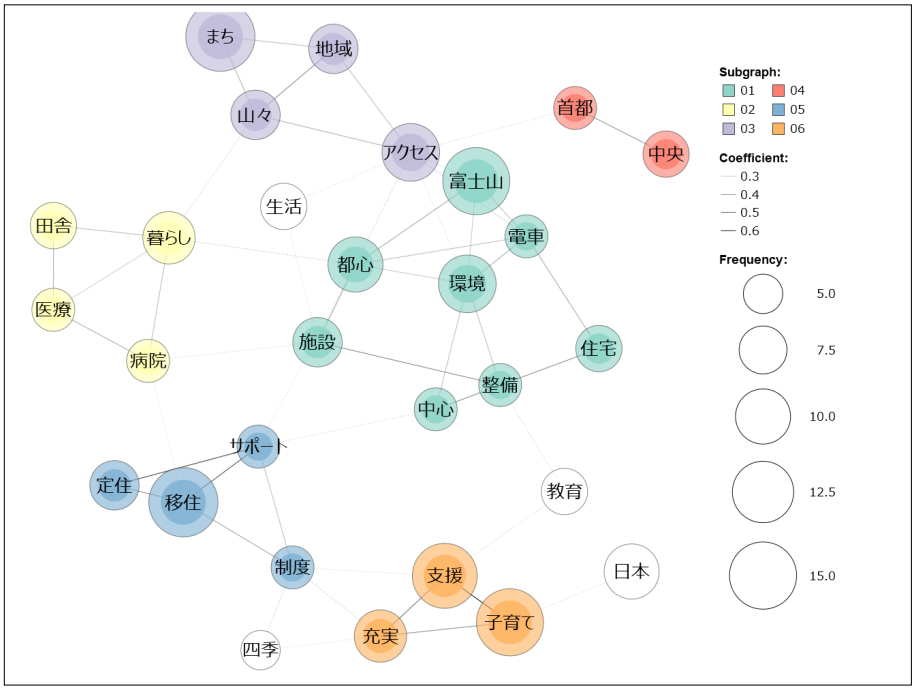
住んで！わがまち自慢

首都圏外縁の山梨、群馬、栃木、茨城の 4 県のわがまち自慢について横断的な調査を行った。各県の移住定住サイト・パンフレットを見ると、市町村別に同じフォーマットで自治体の紹介が書かれていたので、それらの PR ポイントを、テキストマイニングを用いて整理してみた。（解析には KH Coder を使用）

各県資料の各市町村の PR 文に含まれる 2 文字以上の名詞を対象に、共起ネットワーク分析を行い、 5 つ以上の市町村で見られた単語を図に示した。
これは、同一市町村の紹介文内で特定の単語やフレーズが同時に出現する頻度を視覚化したもので、同時に出現しやすい単語群が、同じ色で近くに示されている。

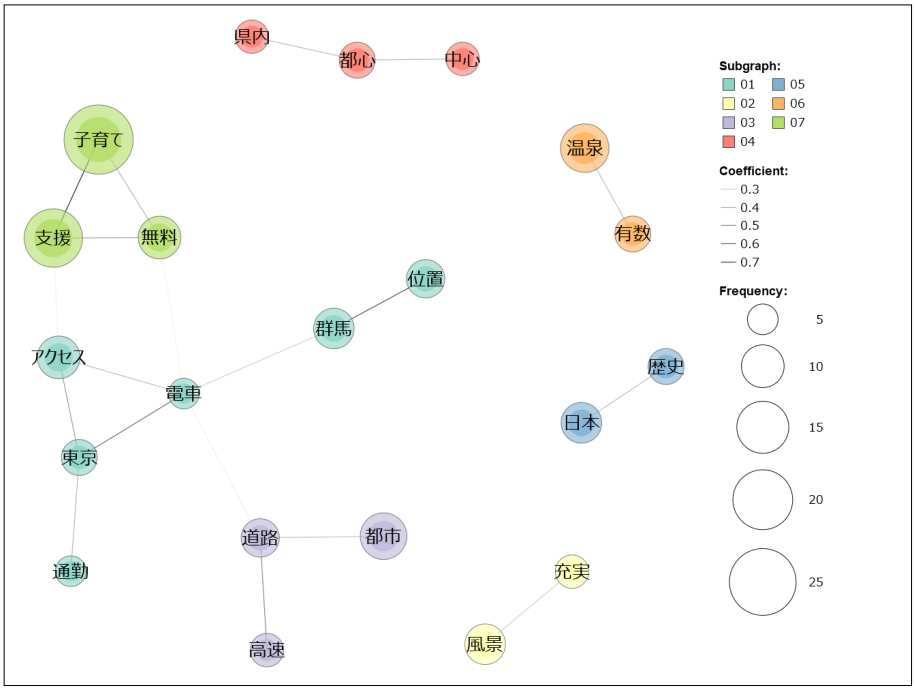
山梨県

山梨県は子育て関連、移住サポート関連、医療関連といった、福祉的な単語群以外に、「富士山」や「山々」といった単語が目立つ。
また、それらの単語は「都心」や「電車」、「アクセス」といった単語の近くに位置し、首都圏から山麓地帯までのアクセスの良さをウリにしていることが分かる。



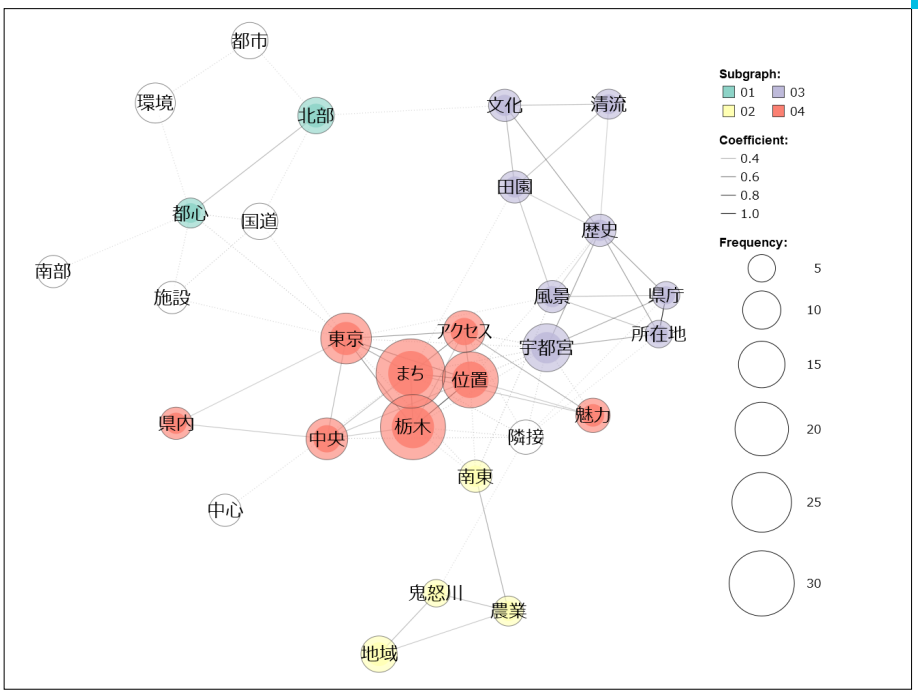
群馬県

群馬県は市町村間で共通して用いられる単語が少なかった。
山梨県同様、東京からのアクセスに関する単語が多く見られたが、「通勤」の記述や「高速道路」に関する記述は、山梨にはない特徴と言える。草津、伊香保、みなかみ温泉など、温泉の魅力の PR も多々見られた。



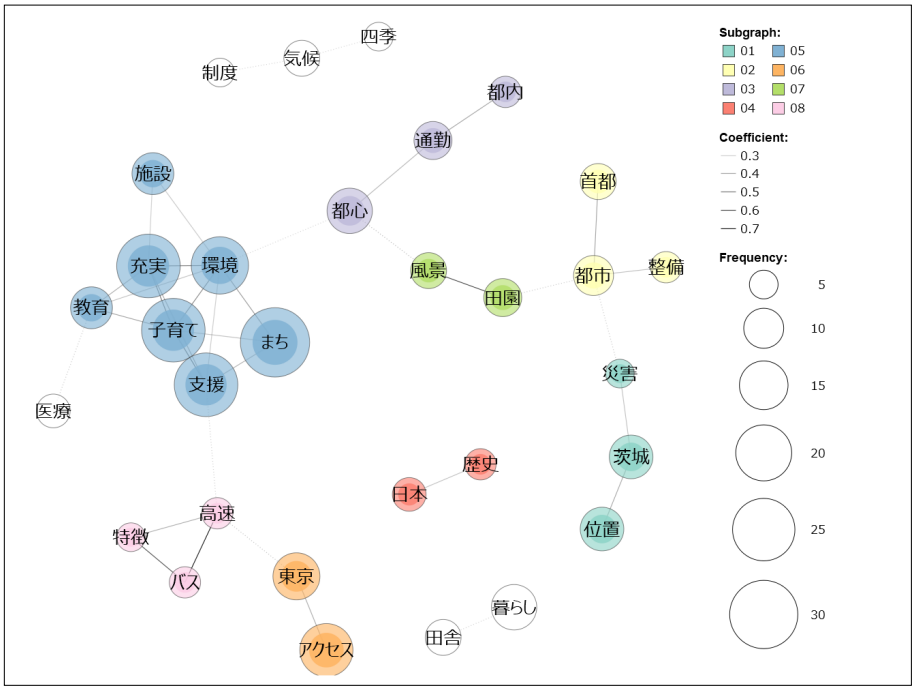
栃木県

栃木県は特に位置やアクセスの情報を前面に押し出しており、対東京だけでなく、北関東最大都市の宇都宮に関する単語も多く見られた。
福祉的な単語群が少ない代わりに、歴史や農業に関する単語が多く見られ、国宝が関東地方で一番多く、酪農や果樹栽培が盛んな県の特徴を表している。



茨城県

茨城県は特に子育てに関する単語が多く、研究学園都市つくばがある県の特徴が出ている。
県南部が都心 50km 圏に含まれるため、「都心」や「首都」といった単語が見られるが、周辺に「田園」や「風景」といった単語も見られ、田園都市構想のように、地方と都心の良さを両方味わえる点を PR している。



まとめ

名詞のほか形容詞や動詞も含めて、出現率の高かった単語をまとめてみた。
※方角を表す単語などは除く。また同順位のものがすべて収まるように抽出した。

首都圏外縁の 4 県では、「自然」「豊か」「環境」「美しい」など自然環境を表す単語群、「東京」「アクセス」「都心」など交通アクセスを表す単語群、また「子育て」「支援」といった単語が共通して見られた。
一方で、山梨県は富士山、群馬県は温泉、栃木県は歴史、茨城県は田園といったように、その県を特徴づける形で、各県ごとに多用される単語が見られた。

今号では時間の制約上 4 県に絞って調査を行ったが、首都圏から地理的に隔絶された、北海道や沖縄、離島といった地域では PR の傾向が異なると考えられる。
今後、続きを特集するものが現れることを期待したい。

山梨県（27市町村）		群馬県（35市町村）		栃木県（25市町村）		茨城県（44市町村）	
豊か	66.7%	子育て	48.6%	栃木	88.0%	自然	54.5%
自然	63.0%	自然	45.7%	東京	60.0%	豊か	50.0%
子育て	44.4%	豊か	45.7%	アクセス	48.0%	充実	45.5%
アクセス	40.7%	支援	42.9%	宇都宮	44.0%	環境	43.2%
富士山	40.7%	環境	31.4%	豊か	44.0%	子育て	43.2%
環境	37.0%	アクセス	28.6%	広がる	40.0%	支援	43.2%
支援	37.0%	都市	25.7%	自然	40.0%	アクセス	36.4%
囲む	33.3%	緑	25.7%	環境	28.0%	東京	29.5%
移住	29.6%	温泉	22.9%	美しい	28.0%	魅力	27.3%
山々	29.6%	群馬	22.9%	魅力	28.0%	都心	25.0%
充実	29.6%	日本	22.9%	歴史	28.0%	暮らし	25.0%
日本	29.6%	無料	22.9%	施設	24.0%	施設	22.7%
美しい	29.6%			清流	24.0%	移住	20.5%
				都心	24.0%	教育	20.5%
				道	24.0%	田園	20.5%
				農業	24.0%		
				風景	24.0%		

参考：やまなしぐらし - 移住・二拠点居住を成功に導く 7 Steps-　https://www.nikyoten.pref.yamanashi.jp/documents/46/r5_ijubook.pdf
はじめまして、暮らしまして、ぐんまな日々　https://gunmagurashi.pref.gunma.jp/download/
栃木県移住・定住促進サイト　ベリーマッチとちぎ　https://www.tochigi-iju.jp/
いばらき移住定住ポータルサイト Re:BARAKI　https://iju-ibaraki.jp/

巡って、買って、ふるさと

「1 万円で日本一周！東京アンテナショップ巡り」

1990 年代、バブル崩壊に伴い、東京の繁華街（有楽町や銀座など）には多くの空き店舗が出現しました。同時に、地方経済は人口流出や資源の東京集中により困難に直面しました。地方自治体は、この空き店舗を活用して地元の特産品を広める「アンテナショップ」という方法を試み、これらの空き店舗を地方経済復興の窓口としました。現在では、アンテナショップは商品の販売にとどまらず、地方の特色を発信し、文化を伝える窓口としての役割も果たしています。東京では、ほぼ 1 日で日本の 47 都道府県の風土や人情を体験することができます。

今回はマガジン編集部で、日本のアンテナショップを合計 1 万円で巡るショッピングに挑戦しました！

北海道 HOKKAIDO

北海道は日本最北の地域で、自然が豊かです。広大な自然と美しい四季で知られています。

① **ハッカ飴 ¥216**
北海道どさんこプラザ

東北 TOHOKU

東北地方は日本の北東部に位置し、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島の 6 県から成ります。自然豊かで四季折々の景色が楽しめる地域です。

⑨ **いぶりがっこ刻み ¥216**
秋田ふるさと館

⑩ **至福桃グミ ¥182**
日本橋ふくしま館

関東 KANTO

関東地方は東京、神奈川、千葉、埼玉など 7 つの都県から成ります。歴史的な観光地や現代的な都市が共存しています。

② **メロンサイダ ¥280**
IBARAKI SENSE

中部 CHUBU

⑤ **甘酒 ¥342**
雪國商店

③ **はぺん白えび ¥216**
日本橋とやま館

⑥ **酔星 ¥275**
銀座・新潟情報館

⑦ **米粉おやき ¥270**
銀座 NAGANO

④ **五平餅 ¥260**
岐阜県トーキョー

⑧ **安倍川もち ¥270**
駿河屋賀兵衛

中部地方は日本の中央部に位置し、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知の 9 県から成ります。日本アルプスをはじめとする豊かな自然や歴史的な街並みが魅力です。

アンテナショップの PR 活動

アンテナショップは PR 活動を重視するため、都市部ではアクセスが良い立地が選ばれることが多いです。しかし、その結果、テナント料などの維持費が高額になるという問題があります。アンテナショップには公的資金が投入され、少ない場合で約 300 万円、多い場合では 2 億円に達すると言われています。しかし、人気のない店舗では採算が合わず赤字となるケースも少なくありません。

そのため、徳島県では独自のアンテナショップを持つのではなく、近隣のコンビニ内に特産品コーナーを設けるという工夫をしています。また、鳥取県と岡山県が共同で運営する「とっとり・おかやま新橋館」や、香川県と愛媛県が共同で運営する「香川・愛媛せとうち旬彩館」のように、複数の自治体が協力して運営する例も見られます。

最近では、地域の特産品や加工品を地元住民が知らないという課題が増えており、その解決策として、地域内にアンテナショップを設置する動きが広がっています。例えば、鳥取県の「鳥取中部ふるさと広域連合」が運営する「Coup! la cafe」（クラカフェ）は、その代表的な例です。

また、東京都内のアンテナショップは、2020 年には 81 店舗とピークに達しましたが、新型コロナウイルスの流行や地価の上昇、通信販売の普及といった影響により、2023 年には 67 店舗に減少しました。

中国 CHUGOKU

中国地方は本州の西部に位置し、広島、岡山、山口、島根、鳥取の 5 県から成ります。歴史的な観光地や自然が豊かで、広島の厳島神社や鳥取砂丘が有名です。

⑪ **出雲そば ¥255**
日比谷島根館

⑫ **せとこまちレモン ¥140**
もみじ饅頭あん ¥130
ひろしまブランドショップ TAU

⑬ **きびだんご ¥239**
とっとり・おかやま新橋館

近畿 KINKI

⑯ **伊勢うどん ¥270**
三重テラス

⑭ **柿 ¥330**
奈良まほろば館

⑮ **梅おもひ ¥324**
わかやま紀州館

近畿地方は日本の中央部に位置し、大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山、三重の 7 府県から成ります。歴史的な文化財や伝統が多く残る地域です。

九州 KYUSHU

手作かりんとう ¥260
座来大分

⑱

⑰ **さつま揚げ ¥280**
かごしま遊楽館

⑲ **いきなり団子 ¥200**
銀座熊本館

九州地方は、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島の 7 県から構成されています。豊かな自然と長い歴史が生み出した宝物です。

四国 SHIKOKU

⑳ **みかんジュースビン ¥162**
香川・愛媛 せとうち旬彩館

㉑ **すだちサイダー ¥320**
徳島・香川トモニ市場

四国地方は日本の南西部に位置し、香川、愛媛、高知、徳島の 4 県から成ります。温暖な気候を生かした農産物の生産が盛んです。

㉒ **芋けんぴ ¥228**
まるごと高知

沖縄 OKINAWA

沖縄地方は日本の最南端に位置し、亜熱帯気候が特徴です。

雪塩ちんすこう ¥220
銀座わしたショップ本店

㉓

食べて！わがまち自慢
「アンテナショップパーティー」

アンテナショップの存在を初めて知った時、「どうして東京に他の都市の特産品店を設けるのだろう？その対象は誰なんだろう？」と不思議に思いました。そんな疑問を抱えながら訪れてみると、アンテナショップは単なる特産品店ではなく、地方文化を伝え、東京と故郷を繋ぐ架け橋のような存在であることに気付きました。また、外国人の私にとって、これまで日本各地の文化はバラバラのピースのようで、それぞれが象徴的なイメージとしてしか捉えられませんでした。例えば、北海道の「白い恋人」、京都の抹茶など。しかし、この巡りを通じて、それらのピースが自分の頭の中であるべき場所に収まり、一つの絵として繋がったような感覚を得ました。

今回の体験で、銀座、日本橋、有楽町などの街に新たな一面に気づきました。普段は服屋やレストランばかりに目が行き、街角に隠れた面白いお店には全然気づきませんでした。でも今回訪れてみたら、驚くほど安い値段で美味しいご当地グルメが手に入るなんて、まさに予想外の喜びでした！

COLUMN

WEB MAGAZINE

続きはコチラ　>>>
https://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/

観察池の池干し

手賀沼プロジェクト

22 日、ミライいのち池での「池干し」では、池の水を抜いて外来種駆除や池底の整備を行いました。寒い中泥だらけになって生きものを探す子どもたちの姿に元気をもらいました！（M1 星）

デザ研大忘年会　開催！

都市デザイン研究室

12/23 に鳳鳴館でデザ研の忘年会を行いしました！今年は現役も合わせて 40 名ほどが集まりました。永野先生が不在という危機的状況でしたが、無事開催することができてよかったです…！（M1 木村）

MACHI BINGO

マガジン片手に、まちを歩こう

子どもタイル @烏山川緑道

世田谷区には、とても面白い緑道があります。烏山川緑道は、歴史的建築物や自然が楽しめる全長約 7km の緑道です。緑道沿いには、地域の子供が動物や昆虫を描いた可愛らしい絵陶板、歩いて楽しい多くの魅力がある緑道です。（M1 王）

12 月号担当
M2 東條秀祐

「これから人口や経済規模が縮小していくなかでも、各都市・地域の特色ある文化や生活を維持向上させていきたい。」私が就職活動の場で語っている理念だが、これは本心にほかならない。　移住することは誰にでもできることではないが、好きな都市・地域に定期的に訪問する、特産品を買うという形でも、文化継承の一助となることはできるのではないだろうか。

URBAN DESIGN LAB. MAGAZINE | vol.353

発行：東京大学都市デザイン研究室マガジン編集部
山田真帆・音山尚大・小林夏月・洲崎玉代・水野謙吾・元吉千遥・東條秀祐
木村千咲・星葵衣・松本望実・和栗千明姫・王思宇

発行日：2024 年 12 月 31 日